

四季の室礼

《十五夜》

室礼（しつらい）は季節や人生の節目に感謝、もてなし、祈願などの心を添えてしつらいます。室礼を知って頂くことで、より豊かに生活を楽しんで頂けると幸いです。

参考 生活文化 室礼三千



《お月見のお供え》

月見は「芋名月」とも呼ばれ、収穫された里芋を供える習慣があることから、古い時代の収穫祭の名残が伺える。

《十五夜》

旧暦は、月の動きと実際の日にとに誤差があるため、旧暦 8 月 15 日（十五夜）も、年によっては満月ではない時もあります。



名月を愛で、収穫を祝う

旧暦八月十五日の晩は「中秋の名月」といい、月見の行事が行われます。旧暦では七・八・九月が秋で、それぞれ初秋・中秋・晩秋と呼ばれていました。

中秋の名月を鑑賞する風習は、中国から日本に伝わり、平安時代の貴族の間で月見の宴が開かれました。中国では果物や月餅などを供えましたが、日本では団子をお供えするようになったと言います。

「月見団子は盗まれる方が良い」などの言い伝えがあり、子供たちがお供えをとる「お月見どろぼう」は公認されています。ススキは神の依り代（よりしろ）とされ、魔除けにも使われました。穂の出たススキは稲穂に見立て飾られたともいいます。